

絵手紙とおじいちゃん



ある さくらの 花が まいちる 春の
日、おじいちゃんから たくとに、はがきが
とどきました。

絵手紙でした。

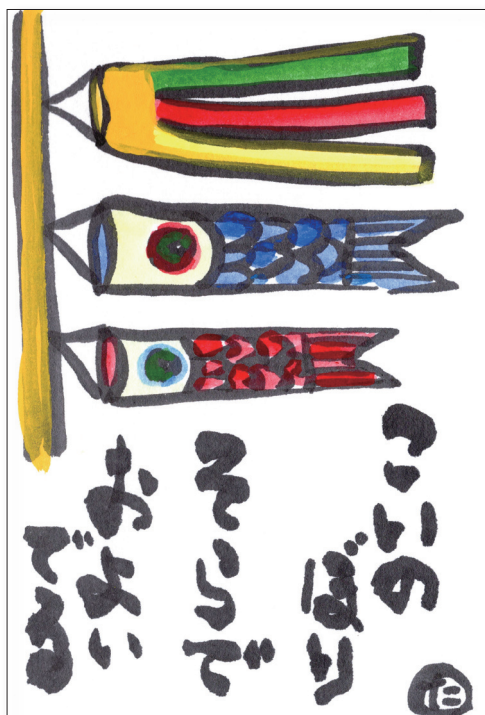
「わあ、おじいちゃんって すごいな。」

たくとは、思わず 大きな 声で 言うと、

じっと おじいちゃんからの 絵手紙を 見
つめました。

「ぼくも かいて みたいな。」

しばらくして、たくとは、おじいちゃんの
家に行きました。おじいちゃんが、絵手紙
を教えてくれることになったからです。



おじいちゃんの手紙を、しぜいに
正し、すずりの上（うへ）で ゆっくり すみを
すって みました。

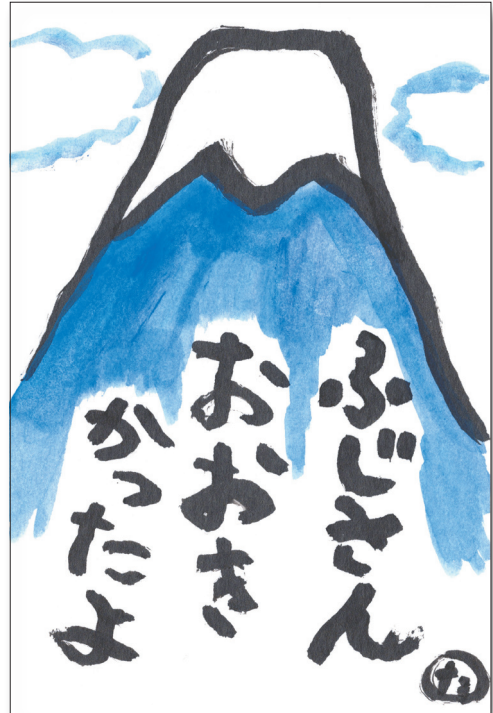
おじいちゃんは、しずかに 言（い）いました。
「自分（じぶん）で かんじた こと（こと）や 思（おも）った こと
を、そのまま かけば いいんだぞ。」

たくとは、ゆっくり すみを すりながら、
かんが 考えました。

今日（きょう）は、五月五日（ごがついつか）の 「こどもの日（ひ）」です。
たくとは、おじいちゃんの家（いえ）に つくまで
に 見（み）た こいのぼりを 思（おも）い出（だ）しました。
「ほう、すなおで いい 絵手紙（えてがみ）だな。」
おじいちゃんは、目（め）を 細（ほそ）めて、ほめて
くれました。



おじいちゃんから、へんじの 絵手紙が
とどきました。
ガラスの 風りんが、かいて ありました。
なんだか、すずしい 風が ふいて きそ
うです。



夏には、りよ行に 行った 時に 見た
ふじ山を 絵手紙に かいて、おじいちゃん
に おくりました。



秋^{あき}には、いもほりの ことを かいて お
じいちゃんに おくりました。

もちろん、おじいちゃんから、へんじの 絵^え
手紙^{てがみ}が とどきました。
おじいちゃんの 絵手紙^{てがみ}からは、ふえや
たいこの 音^{おと}が 聞^きこえるような 気^きが し
ました。



冬^{ふゆ}に おもちを 食^たべた 時^{とき}にも 絵^え手^て紙^{がみ}を おくりました。

おじいちゃんから へんじの 絵^え手^て紙^{がみ}が とどきました。

外^{そと}に 出^でて こま回^{まわ}しが したく なりました。

(おじいちゃん、日本^{にっぽん}には、いろいろな きせつが あって すてきだね。)

おじいちゃんに 今^{こん}ど 会^あったら、つたえようと 思^{おも}いました。



ち、まっ白^{しろ}いはがきに おかいました。
たくとは、しせいを 正^{ただ}して、ふでをも

(文・絵 保科 正子 作)